



万燈通信

平成30年9月7日発行

全国学力・学習状況調査 4月17日 3年生実施**結果は生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かします。**

去る8月1日に、平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。全国、群馬県の正答率は右の通りです。太田市では数値による公表は、行っておりませんが、本校の状況は、国語はA（主として知識・技能）・B（主として活用）、数学A、B、理科すべてで全国平均をわずかに上回っていました。（昨年から、県の正答率は整数値での公表となりました）

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
群馬県	79	73	65	50	69
全国	77.4	72.2	64.6	48.1	66.1

結果を受けて、改善の主旨

1 「表現する力」を伸ばします

生徒質問紙における、「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という質問に対し、本校の生徒は「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した生徒が、全国を8.1ポイント上回っています。

本校では、「自らの思いを主体的に表現できる生徒の育成～『考え、議論する』道徳授業を通して～」というテーマで、昨年から校内研修に取り組み、各教科においても話し合いや発表する機会を多く設定しています。また、授業のはじめの方で、1時間のめあてを明確にしたり、授業の終わりに「何ができたようになったか」「何を学んだか」を明確にする「振り返り」の時間を設けたりして表現力育成に努めています。

2 「ねばり強く取り組む姿勢」を繰り返し指導します

生徒質問紙における、「数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか」という質問に対して、「すべての問題を最後まで解答を書こうとした」と答えた生徒は、全国の平均より6.8ポイント下回っていました。

分からない問題をねばり強く考えたり、既習の知識を活用して何とか解答を導いたり姿勢がやや不足しています。入試ではわずか1点の差が合否を分ける場合もあります。定期テストや実力テストはもちろん、単元テストなどでもねばり強く取り組む大切さを、普段の授業づくりから繰り返し指導していきます。

3 観察や実験、実習等をもとに「思考力」を伸ばします

生徒質問紙における、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」という質問に対し、全国比-7.7ポイント、「観察や実験をすることは好きですか」は、全国比+9.0ポイント、「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」は、全国比+15.8ポイントでした。

以上から、本校3年の生徒は自然体験の経験は少ないが、観察や実験を好み、自分で予想を立てて学習に臨んでいることが分かります。今後も、観察や実験、実習等を教科の特質や学習内容に応じて取り入れ、そのことをもとに解決方法や結果についての見通しを立てたり、話し合いを深めたりして、「思考力」を育成する問題解決型の授業づくりに取り組んでいきます。

本校3年生の生活面における特色 ～全国学力学習状況調査 生徒質問紙 全国との比較より～

◎「将来」について家庭で話し合っている生徒がたいへん多い。

◎地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している生徒がたいへん多い。

○将来の夢や目標を持っている生徒が多い。

○家で授業の予習や復習をしている生徒が多い。

○普段（月曜から金曜）1日3時間以上学習する生徒や1日1時間以上読書をする生徒は多い。

●自分で計画を立てて勉強している生徒は少ない。

◎県や全国より、プラス10ポイント以上であった主な質問

①「家の人と将来について話すことがありますか」（「よく話す」、「時々話す」の合計）

②「今住んでいる地域の行事に参加していますか」（「当てはまる」「どちらかといえば」の合計）

③「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」（「ある」と答えた生徒）

○県や全国より、プラス5～10ポイントであった主な質問

④「将来の夢や目標を持っていますか」（「当てはまる」「どちらかといえば」の合計）

⑤「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」（「している」「どちらかといえば」の合計）

⑥「学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜）、1日あたり勉強時間（学習塾、家庭教師も含む）」（「3時間以上」と答えた生徒）

⑦「学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜）1日あたりの読書時間」（「1時間以上」と答えた生徒）

●県や全国よりマイナス5～10ポイントであった主な質問

⑧「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」（「している」「どちらかといえば」と答えた生徒）

<考 察>

主に、①～③は全国の回答より、10ポイント以上高かった項目で、④～⑦は5～10ポイント高かった項目、⑧は全国より、5～10ポイント低かった項目です。

①からお子さんと保護者の関係が、良好な家庭の多いことが推察できます。生徒の心の安定は、まず家庭からつくられます。家庭で心が安定している生徒は、学校でも落ち着いた行動がとれています。お仕事等がお忙しい中とは存じますが、時々お子さんと会話をする時間を作っていただくことが、たとえ、中学生になっても必要であることをご理解いただきたいと思います。②～③は、特に肯定的な回答をしている生徒が多く、「挨拶、清掃、ボランティア」に数年間取り組んでいる成果と保護者の皆様のご理解、ご協力のおかげです。④は①を通して、保護者や本人の考えが共有され、中学で行っている職場体験等のキャリア教育の成果が表れていると考えています。⑤～⑦は、学習に対する取組の良さが反映され、家庭学習や読書の時間が県や全国の平均を上回っていることが分かります。

一方、⑧より、家で計画的に学習をしている生徒が少ないことが気になります。学習時間や読書時間が県や全国平均より多いのに、計画的に学習している生徒が少ないとは？。考えられるのは、塾等に行き学習時間は確保されているが、受け身の学習であったり、課題をこなす時間で一杯になっていたり、本来自分が克服しなければならない学習内容や伸ばしたい教科の学習に取り組む時間が計画的に取れていないことです。

高校に進学後伸びる生徒は、「自分ではっきりとした目標をもち、学習できる」生徒です。本校でも学年の実態に応じて、今できるまたはやらなければ困る家庭学習について、学年や教科毎に工夫をしています。「やらされる（受け身の学習）」から「やる（主体的な）学習」へ、ご家庭でも時間の使い方を工夫させていただきたいと思います。